

日本・紙アカデミー 編

紙—昨日・今日・明日

日本・紙アカデミー25年の軌跡

2013年9月刊行

A5判・178頁／定価 2,100円(税込) ISBN978-4-7842-1704-5

1983年、国際紙会議の成功を受け、開催地京都で設立された「日本・紙アカデミー」は今年、活動25年の節目の年を迎えた。本書は、紙の製法の確立や生産、紙のリサイクルの可能性、紙を利用したアートやデザイン、産地ごとに固有の顔をもつ和紙の製法など、多様なアプローチから紙にかかわってきた人々による、紙が生み出した文化をさまざまな角度から分析し、理解しようとする思いが結集した、記念の年にふさわしい論文集。

目次・執筆者

(サブタイトルは一部省略)

第1部 戦前から日本・紙アカデミー創設まで

和紙振興の取り組み 田村正(紙漉き師)
和紙の復興に立ち上がった文化人の活動/IPC'83 KYOTO
伊部京子(京都工芸繊維大学 未利用資源有効活用センター特任教授)
東京での和紙文化振興の経緯
辻本直彦(公益財団法人 紙の博物館学芸部長)

第2部 日本・紙アカデミーの25年

日本・紙アカデミー組織概要
伊部京子・鈴木佳子(京都市立芸術大学名誉教授)

第3部 紙のいま、紙の明日

【1 技術の継承】

紙の保存性と被曝した紙資料の取扱
稲葉政満(東京藝術大学大学院教授 和紙文化研究会会長)
紙を飾る日本 増田勝彦(昭和女子大学光葉博物館顧問)
和紙の展望 長谷川聡(長谷川和紙工房代表)
修復における和紙の役割について
宇佐美直治((株)宇佐美修徳堂代表取締役 京表具伝統工芸士)
パピルスの時代に、靱皮繊維を用いた紙は存在した?!
坂本勇(ペーパーコンサーヴァター 樹皮紙研究者)
金泥経と紙
福島久幸(金泥書フォーラム理事 金泥書法研究家)

【2 芸術表現と紙】

日本美術における紙と絵画
並木誠士(京都工芸繊維大学大学院教授)
芸術表現と紙 小山欽也(女子美術大学名誉教授)
表現の手段としての和紙の可能性
五十嵐義郎((株)NATURAL design 空間デザイナー)

美濃・紙の芸術村 須田茂(元美濃市文化会館長)
「和紙」と「ファイバーアート」
ジョー・アール(Bonhamus競売会社ロンドン本社特別顧問)
紙とデザイン教育

中野仁人(京都工芸繊維大学大学院准教授)
インクジェットプリンターを使った作品制作のためのカラーマネジメント 辰巳明久(京都市立芸術大学教授)
紙はリアルな物質である。
竹尾稠((株)竹尾代表取締役社長)

【3 紙と化学】

「和紙」と「雁皮の靱皮繊維」の化学
錦織禎徳(島根大学名誉教授)
紙と水 大江礼三郎(東京農工大学名誉教授)
古代紙に使われた繊維 宍倉佐敏((株)「紙の温度」顧問)
伝統工芸のグローバル化 藤森洋一(阿波和紙伝統工芸士)
紙のエコロジー
岡田英三郎(元日本・紙アカデミー常務理事)


野菜の紙
木村照夫(京都工芸繊維大学 未利用資源有効活用研究センター長)

【4 紙の未来】

「紙の文化学」から考える紙の本質と未来
尾鍋史彦(東京大学名誉教授 元日本・紙アカデミー会長)
紙の明日 リアルペーパーと電子ペーパー
中西秀彦(中西印刷(株)専務取締役)
アメリカにおける和紙 片山寛美(Hiromi Paper, inc. 代表)
固有の潜在力を有する「製紙産業」とその将来
辻本直彦

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	紙—昨日・今日・明日	本体2,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1704-5	
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
			本書HPのQRコード		書店番線印

※紙 七人の提言

日本・紙アカデミー編

各分野のオーソリティが語る現代社会における紙の問題

【内容】紙と文明(吉田光邦)／紙が教えてくれること(岡村誠三)／文化財修復と和紙の特性(増田勝彦)／和紙の抱える問題点(柳橋眞)／製紙術の起源について(潘吉星)／芸術と紙(乾由明)／日本の紙を考え直す(町田誠之)

▶A5判・256頁／定価3,262円

ISBN4-7842-0729-5

※壁紙のジャポニスム

松村恵理著

第24回ジャポニスム学会賞

開国と万国博を契機に西洋を席卷したジャポニスムは、壁紙という分野においてもみられた。本書では、欧米に渡った日本の装飾紙の調査、後に大きな影響を与えたシェノーの日本美術論も踏まえ、19世紀後半から20世紀前半にわたる壁紙のジャポニスムをそのデザインの具体例にそってさぐる。

▶A5判・240頁／定価3,360円

ISBN4-7842-1098-9

※昭和民芸紙譜 [全5冊]

久米康生編著

昭和初期、民芸運動の中で生まれ、民芸紙と呼ばれるようになった加工紙。染の歴史は古いがその伝統技術を現代に復活させたのが民芸紙である。本書は、全国の紙郷に漉場を訪ね、その全容を紹介して、作るものとするものをつ結び、民芸紙の発展を基盤に手すき和紙の伝統継承を希うものである。各地の生漉紙・民芸紙の253点を付す。

▶B5判変型・総280頁／定価34,125円

ISBN4-7842-0248-X

大和(奈良)の紙

柳瀬木鶏編

和紙文庫シリーズ

和紙の変遷をえがく和紙研究書。各産地の実物見本を添え、本文装幀ともに漉紙仕様したシリーズ。

大和の紙を大別して吉野紙、宇田紙、美須紙のその沿革及び抄法の変遷を紹介し、見本紙として、長宇田紙、宇田小半紙、宇田紙時代色、吉野紙渋びき、吉野紙白、美須紙、森下紙を添付。

▶B5判・50頁／定価20,388円

ISBN4-7842-0603-5

水玉紙・奉書紙・高野紙

柳瀬木鶏編

和紙文庫シリーズ

近世後期殿上人や文人墨客たちが歌を詠み筆を走らせる紙箋に用いた水玉紙、また紙衣として用いられた揉み紙水玉紙、奉書紙の原点ともいえる生漉奉書紙、禁裏御用の越前奉書、免状用紙として知られる漉込奉書、伊予政ともいわれる伊予奉書、お大師様に教えられたといひ伝えられる高野紙、その強さを利用した高野傘紙などの見本16種付。

▶B5判・50頁／定価20,388円

ISBN4-7842-0604-3

楮・三桮・雁皮が紙になる迄

柳瀬木鶏編

和紙文庫シリーズ

和紙の変遷をえがく和紙研究書。各産地の実物見本を添え、本文装幀ともに漉紙仕様したシリーズ。

楮、三桮・雁皮の原料見本及びその生漉紙見本が添付。更に後半に、薩摩蒲生町の蒲生紙の沿革及びその盛衰が記されており、野村蒲生紙が紹介されている。見本16種付。

▶B5判・50頁／定価20,388円

ISBN4-7842-0605-1

土佐の紙 [全2冊]

柳瀬木鶏編

和紙文庫シリーズ

和紙の変遷をえがく和紙研究書。各産地の実物見本を添え、本文装幀ともに漉紙仕様したシリーズ。

高知県は県庁に紙業課が置かれている唯一の県であるだけに、その生産額は現在も首位を保っている。本書は土佐の紙漉の歴史と現在の漉産の様子を紹介。見本紙11種付き。

▶B5判・100頁／定価35,680円

ISBN4-7842-0606-X

佐賀の紙

柳瀬木鶏編

和紙文庫シリーズ

和紙の変遷をえがく和紙研究書。各産地の実物見本を添え、本文装幀ともに漉紙仕様したシリーズ。

佐賀県の紙は名尾の提灯紙、小域半紙、唐津半紙の名で代表され、越前→筑後→肥前と言う技術の系譜がある。本書は元禄以降の肥前の紙漉の歴史を詳述し、また現況を紹介。見本紙7種付き。

▶B5判・50頁／定価20,388円

ISBN4-7842-0607-8

近江の紙・津山の紙・ネリの話

柳瀬木鶏編

和紙文庫シリーズ

和紙の変遷をえがく和紙研究書。各産地の実物見本を添え、本文装幀ともに漉紙仕様したシリーズ。

近江の和紙の歴史を述べ、現在唯一の紙漉である成子氏の現況を紹介。三桮の大産地である津山の紙漉は、三桮ばかりで漉く極端に薄い紙で金箔氏の境紙の生産量が多い。見本紙6種付き。

▶B5判・50頁／定価20,388円

ISBN4-7842-0608-6

※上村六郎染色著作集 [全6巻]

上村六郎著

日本染色学界の大先達である著者の永年にわたる研究の集大成。

【構成】①東方染色文化の研究／民族と染色文化②上代文学上に現れたる色名色彩並に染色の研究／日本上代染草史考③万葉染色考／万葉染色の研究④村々の民俗と染色⑤村々の民俗と染色／染色随筆⑥ハワイ・アメリカ民芸の旅／旅つづり／越後・佐渡民芸の旅／丹波布

▶A5判・平均500頁／揃定価40,425円

日本の食の近未来

熊倉功夫編

生活の豊かさの典型である「食」。飽食の時代と言われる現代日本において、「食の豊かさ」は今後何をもちたらすのか？謳歌するだけでよいのか？本書は、このような日本の現代に疑問を感じた8名の研究者が、食文化の近未来について共同研究会を行った成果である。

▶46判・260頁／定価2,415円

ISBN978-4-7842-1678-9

老舗に学ぶ京の衣食住

西岡正子編

佛敎大学四條センター叢書⑤

◎古くからの技と伝統を守り継ぐ老舗。その主人や、おかみ自らの言葉で綴る「本物の京都学」。

◎佛敎大学四條センター公開講座《老舗に学ぶ京の衣食住》講座録。

◎京都に百年以上続く老舗の、商品に秘められた技や歴史はもとより、生活のなかに息づく智恵や文化、経営哲学、理念を紹介する。

▶A5判・242頁／定価1,995円

ISBN978-4-7842-1673-4

京都 伝統工芸の近代

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編

京都における、他の地域とは異なる側面を有する「近代」にあって、美術・工芸がどのような変容をとげて現代にいたっているのか。大きく「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ、視覚的にわかりやすく概観する。

▶A5判・300頁／定価2,625円

ISBN978-4-7842-1641-3

正倉院染織品の研究

尾形充彦著

宮内庁正倉院事務所で研究職技官として、一貫して染織品の整理・調査・研究に従事してきた著者による、永年の研究成果。正倉院事務所が行った第1次・第2次の古製調査(昭和28~47年)や、C. I. E. T. A. (国際古代染織学会)の古代織物調査方法に大きな影響を受けて、身につけた調査研究方法により進めてきた正倉院染織品研究の集大成。

▶B5判・416頁／定価21,000円

ISBN978-4-7842-1707-6

※視覚の一九世紀 人間・技術・文明

横山俊夫編

視覚という世界の広がりや視覚メディアを中心とした19世紀の文明史的研究。【内容】“文明人”の視覚／平地劇から舞台劇へ／蔵書家の視界／ナポレオンのコルベール／明治写真考／オーストラリアの博覧会におけるジャパン／巨船グレート・イースタンの視像／真山青果の歴史視を求めて／チョンキナ／富士の近代／病いの世紀 他

▶A5判・464頁／定価6,090円

ISBN4-7842-0700-7

※万国博覧会の研究

吉田光邦編

19世紀、体制を整備しつつあった国家・近代的な企業・国民という意識に支えられた大衆社会を基盤にスタートした新しい情報メディアの場、博覧会の諸相を明かす学際的研究。【内容】博覧会時代の背景／万国博覧会と日本の「美術工芸」／クリストファー・ドレッサーと日本／クルップ社の19世紀／菊と万国博／パリ博覧会日本館・1937 他

▶A5判・374頁／定価6,825円

ISBN4-7842-0414-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。